

スーパーマーケットに投票所

市長さんは若いだけあって、市役所前に交番を設けたり、庁舎内にコンビニを入れたり、奇抜なアイデアで、よく頑張っていると思います。

そして、今度はスーパーマーケットに投票所を作りました。「投票所は公共施設」と思い込んでいた私は、一瞬目を疑いました。国道171号線以南には公共施設がなく、私を含めて多くの市民は、選挙のたびに国道を渡る必要があり大変不便を感じていました。でも、「公共施設がないのだから仕方がない」と諦めていましたが、さすが倉田市長さんだと感心しました。

聞けば、府内では初めてのことでとか。そりゃそうでしょう。交番やコンビニの件も含めて、こんなアイデアマンは他にいません。これからもっと突拍子も無いアイデアで、素晴らしい箕面市にしてください。(瀬川 K.O)



令和時代は穏やかに

去年は、地震に始まり豪雨や猛暑、台風が続く「災害の年」でした。私のマンションでも、大阪北部地震で食器棚が倒れ、コップや皿が飛び散りました。阪神淡路や東日本大震災を思い出し、ほんと怖かったです。その後も台風の襲来が続き、停電も断水も経験しました。そんな災害の時には、水と食糧の備蓄とともに、「正しい情報」が貴重だと思いました。地震の時に「箕面市全域が断水する」といった間違っただマも流れていたからです。

声

私は、普段からスマートフォンで、倉田市長のツイッターを見るようにしています。市長は、いつも箕面の様々な興味深い情報をツイートしていますが、災害時には、避難指示や避難所の開設、給水や携帯電話が充電できる場所など、災害対策本部から直接ツイッターで発信しているの、一番信頼できる情報です。また、災害時に市長と直接つながっているという安心感が、とても心強いです。

それにしても「平成」は、良いこともたくさんありましたが、災害が相次いだ時代でもありました。「平成」から、新しい「令和」の時代へ！令和を英語に訳すと、「ビューティフル・ハーモニー」だそうです。文字どおり、美しく調和した穏やかな令和時代であることを願います。(外院 U.N)

出産後のお母さんをしっかり支援

出産後、実家に頼れない、夫も仕事が忙しいなど、一人で赤ちゃんのお世話をしないといけないお母さんに、看護師さんや助産師さんがお手伝いする事業が始まったというお知らせを見ました。

利用されるお母さんはどんな使い方でもOKとのこと。育児で自分の時間がないお母さんに、赤ちゃんを預けて一人でのんびりしたり、朝までぐっすり休んだり、久しぶりにパパとゆっくりおしゃべりとか、産後のお母さんがリラックスできますね。また、授乳がうまくいかない、沐浴させるのが不安なお母さんに、助産師さんに教えてもらうこともできます。

料金も、宿泊型6000円、日帰り3000円、訪問型1500円とリーズナブル。赤ちゃんを産み育てるって、初めてのことでばかりで、私のときもほんとうに不安で不安でなりません。

ぜひ多くの人に利用していただき、子育てを楽しんでいただきたいと思います。(小野原 M.M)



箕面市長 倉田哲郎 まちづくりニュース

“箕面のチカラ”

2019年08月号

倉田哲郎後援会 Fax 06-7635-7195

第3ステージのコンプリートに向けてラストスパーク！

倉田哲郎市長が就任

して早や11年が経ち、3期目の任期も残すところ1年となりました。市長就任以来、「変えるべきは断固として変え、伸ばすべきは思い切つて伸ばす」の姿勢を貫き、改革に取り組んできました。

この間、長年に亘って取り組んだ改革として、東日本大震災を機に大きく改革した防災対策があります。昨年は、大阪北部地震に始まり7月豪雨、台風21号など立て続けに災害が発生し、成果が試される初めての試練となりました。実践では、地域住民の方々のご協力のもと重ねてきた地域防災力向上の成果が多く、現場で発揮され、さまざまな被害の復旧も着実に進められるなど、専門家から高い評価を受けています。

また、市長就任以来、背水の陣で臨んだ北大阪急行線の延伸。工事最盛期を迎えようとしていましたが、用地交渉の長期化や予定外の地下工事により開業目標が3年延期し令和5年度(2023年度)となりました。しかしながら、箕面船場阪大前駅の

市民文化ホールや図書館・大阪大学などは予定通り令和3年(2021年)春にオープンする予定で、新駅周辺のまちづくりは着実に進んでいます。

倉田市長は3期目では、「シニア活動応援交付金によるシニア世代のサポート」、「スポーツ施設マネジメント計画による施設の再生」、「外国人英語指導助手の配置拡大」、「保育所待機児ゼロの達成」、「子どもの医療費助成を高校卒業までに拡大」、「自転車走行レーンの整備」、「都市計画道路の整備と道路ネットワークの再検討」など、「マニフェスト2016」に掲げた「お約束」を着実に実現してきました。今年度も、「総合水泳・水遊び場の整備(屋内温水プールなど)」、「土砂災害の対策工事」に着手するなどマニフェストを進め、倉田市政の3期目のコンプリートに向けて、持ち前の「スピードと実行力」をもってラストスパークしており、今後も大胆な市政運営に大きな期待が寄せられています。



長年の夢が現実となった北大阪急行線の延伸は、用地買収や地中構造物の判明などにより工事工程の見直しが必要となったことから、開業目標が令和2年度(2020年度)末から令和5年度(2023年度)に見直されました。

● 工事工程の見直しは、用地交渉が長期化したこと、地中に昔の国道423号のものと見られる全長150メートルのコンクリート擁壁が発見されたこと、トンネル掘削箇所ですり出し壁が見つかり撤去に期間を要することなどにより工期が延長となったもの、とのことです。

● 倉田市長は、「開業を延期せざるを得ないのは非常に残念ですが、引き続き十分な安全対策を講じた上で延伸工事を着実に進めてほしい。また、新たな開業目標に向け、延伸効果を最大限に引き出せるまちづくりの実現に努めたい。」と新駅周辺のまちづくりにも、引き続き積極的に取り組んでいます。

● 箕面船場阪大前駅の周辺では、市民文化ホール・図書館・生涯学習センターや大阪大学箕面新キャンパスは当初の予定どおり令和3年(2021年)春にオープンする予定です。駅前広場などは、令和5年度(2023年度)の鉄道開業までに完成する予定です。

● 箕面萱野駅の周辺では、バス・タクシーの乗降場等の交通広場や駐輪場、駅前ビルの誘致などは、令和5年度(2023年度)の鉄道開業までに完成する予定です。

● 鉄道開業と合わせて、市域全体で鉄道・道路・バスによる新たな交通ネットワークの再編も予定されており、市全体がよりいっそう便利で魅力あるまちになっていきますね。

安心・支え合い最優先

防犯カメラによる早期逮捕

6月16日朝、吹田市内で警察官が襲撃され拳銃を強奪される事件の一報が届きました。倉田哲郎市長は、すぐさま市民の安全を第一とし、中学校の部活動や市民の参加イベントの中止を決定しました。

大阪府警の捜査により、翌朝に犯人逮捕となりましたが、その陰では本市の防犯カメラが大いに役立ちました。

市内には、市や自治会が設置した防犯カメラが合計1938台あり、市街地では100メートル四方に1台あることとなります。これは5年前に、倉田市長が、防犯カメラの通学路への大規模導入を決め、その後、自治会の協力も得ながら箕面市の隅々まで広がってきたもの。

市と箕面警察では、緊急時にはすぐに映像の活用ができるよう協定を結んでいます。今回警察は即座に映像の解析を始められ早期逮捕に至りました。

これからも倉田市長の安全安心なまちづくりに期待しています。また、襲撃を受けた千里山交番の警察官の全快を心より祈念いたします。

シニア塾スポーツコース

箕面市が実施した調査で、高齢者のお出かけ先に「スポーツ施設」とお答えになった方の割合がなんと2割もあったそうです。このような高齢者のスポーツに対する意識の高さに応え、高齢者のスポーツ人口を増やすために、倉田哲郎市長は、60歳以上のみなさん向けの市オリジナル講座「シニア塾」にスポーツコースを設け、令和元年度から拡大開講されました。スポーツコースには、ボウリング、ゴルフ、卓球、フラダンスなど20クラスのスポーツが用意されています。

スポーツで体を動かすことは、生活習慣病の改善や介護予防につながるとともに、同世代同士で新しい趣味や仲間をもつチャンスにもなります。シニア塾スポーツコースの受講をきっかけに体を動かし人とふれあう高齢者が増加し、健康長寿なかたが多い箕面市になることが期待されますね。

子育てしやすさ日本一

英語力が大きく向上

平成30年度に実施した英語力を判定するテストで、箕面市の市立中学校3年生では、英検3級相当以上の英語力を有する生徒の割合が79.7%に達しました。これは、全国平均の42.6%を大幅に上回っています。さらに、英検準2級相当以上の割合も37.6%に達し、箕面市の中学3年生の英語力は、なんと全国の高校3年生の平均の40.2%に迫っています。この結果は、倉田哲郎市長が国に先駆け、市立小学校の全学年で英語の授業を毎日実施、中学校でも英語の授業時間数を増やすと共に、ネイティブの外国語指導の先生(ALT)を大幅増員してきた成果です。いまでは箕面市の中学校は各学年に1人ずつ、小学校は1~2学年に1人ずつの外国人の先生がいます。

「英語は楽しいですか?」という質問に対して、箕面市の中学生は7割以上、小学生は8割以上が楽しいと回答しています。ALTとの触れ合いなどを通じて、今後も楽しみながら英語力を伸ばしていくことでしょう。

待機児ゼロ達成

さらにいつでも入れる保育所へ

いつでも保育園に入れる、子育てなら「箕面」と言われたい、そんな倉田哲郎市長の強い思いから、市では待機児ゼロの実現に向けて取り組んできました。

その結果、「2019年度までに定員485人分の保育所定員拡大を進める」とした当初の目標値を超え、今年4月には、13施設、定員644人分の整備増(2016年度比)が完了し、年度始めの待機児童は、ついに全年齢で「ゼロ」が達成できました。

しかしながら、0歳児・1歳児の“通年の待機児童ゼロ”つまりいつでも保育所に入れることが倉田哲郎市長の真の目標とのこと。今後は潜在保育士の復職支援や市内保育施設に勤務する保育士の子どもを優先的に保育所に入所できるようにするなど、少しでも多くの保育士に箕面市に来てもらい、0歳児・1歳児の受け入れを拡大するそうです。倉田市長のさらなる行政手腕が期待されます。

緑・住みやすさ最先端

住居専用地域で民泊を制限!

全国に先駆け、倉田哲郎市長が住居専用地域などの住宅地で民泊の立地を制限する新規施策を打ち出しました。

これまで箕面市では、商業地域など、もともと旅館・ホテルの立地が可能な場所でした。ところが昨年6月に住宅宿泊事業法、いわゆる「民泊新法」が施行されたことにより、箕面市全域で民泊の営業が可能になってしまいました。

民泊は、地域密着型の観光振興などの効果が期待される面もありますが、一方で、騒音やごみ出しなどで周辺住民とトラブルが発生する事例も報告されています。閑静な住宅街の佇まいと良好な住環境は、箕面市の魅力の根源です。こうした住宅地で野放図に民泊が営業されることは、良好な住環境の維持という視点から決して好ましいことではありません。

そこで倉田市長は、箕面市の魅力の根源である住環境を守るため、いち早くこれをルール化することとし、市街化区域の約8割を占める住居専用地域などの住宅地を対象に、都市計画法を駆使して市条例で民泊の立地を制限することにしました。

ここまで大胆なルール化は全国的にも珍しく、市街地の大半で民泊の立地を制限することになりますが、決して規制一辺倒という訳ではなく、商業地域などのエリアでは民泊の実施が可能です。住宅地としっかりと棲み分けをして、良好な住環境の維持と民泊事業の両立を図るための箕面市ならではの取り組みですね。

